

本場大館きりたんぼまつり in 樹海ドーム

10月13日、14日に開催される「本場大館きりたんぼまつりin大館樹海ドーム」は、実行委員会により準備、PRが順調に進められています。

市内向けのPRについては、広報おだてにチラシを折り込んだほか、企業、関係団体等にもポスターやチラシを配布しています。また、中心市街地にある35の飲食店の協力により、関連イベント「夜の大館巡り 店・酒・人」を開催し、きりたんぼまつりの周知と飲食店の活性化が同時に図られたものと思っています。

一方、市外に対しては、秋田市、青森市、八戸市、弘前市、盛岡市、仙台市にある旅行代理店44社を訪問し、ポスターとチラシを配布して大館ときりたんぼまつりをPRしています。

出店業者については、市内のきりたんぼ専門店や飲食店など約70事業者が確定し、8月1日から市内大型店などで前売り券の販売を開始しました。

まつり当日は混雑が予想されることから、長根山運動公園と御成町二丁目交差点からシャトルバスを運行し来場者の利便性を確保します。



クマ出没警戒対策室の設置

本年は、市内でのクマの目撃情報が例年になく頻度で寄せられ、農作物や比内地鶏に多数の被害が出ています。そのため例年以上に厳重な注意、警戒が必要であるとして、7月23日に、庁内に「大館市クマ出没警戒対策室」を設置しました。

また、大館警察署及び大館市猟友会との連絡会議を開催し、三者が連携して警戒に当たり、必要に応じて駆除することを確認したところです。

8月20日現在の目撃情報は、例年の約2倍に当たる183件で、養蜂、家畜の飼料、比内地鶏、ナシ、リンゴ、スイカ、トウモロコシなどが被害に遭っていることから、捕獲用の檻を2基増設して7基とし、23件の捕獲申請により13頭を駆除しています。

例年、これから降雪期まではクマの出没が多くなり、農作物などの被害の増加が予想されることから、引き続き厳重な警戒に当たり、必要に応じて駆除を行ってまいります。

雇用情勢

来春の市内高校卒業予定者の就職動向については、7月末現在、就職希望者274人のうち172人が県内就職を希望しています。市内企業の求人数は48事業所144人で、昨年同期との比較では26事業所42人増と出足は好調

ですが、来春も就職率100%となるよう、地元企業への早期求人働きかけているところです。

一方、6月のハローワーク大館管内の有効求人倍率は0.67と、昨年同期との比較では0.16ポイント上回っていますが、景気の動向は依然不透明であり、継続的な雇用対策が求められています。

緊急雇用創出臨時対策基金事業による雇用状況については、平成21年度から23年度までの3年間で196事業624人を雇用し、そのうちの約6割が次の雇用につながっているとの結果が出ています。このことから、次の就労までの短期雇用を確保するという意味では、一定の成果が得られたものと思っています。

本年度も、当初予算では33事業121人の雇用を確保し、更に「特別支援教育支援員配置事業」の拡充や、「大館の魅力情報発信事業」、「通り再生ロードマップ作成事業」などの8事業を創出し、26人の雇用を見込んでいます。

大館市観光大使の任命

本市の観光大使としては、昨年の7月1日付けで、白神フーズ社社長の根田哲雄氏、東京芸術大学准教授の中村政人氏、日経BP社ビジネスライフ局長の麓幸子氏、秋田犬保存会東京支部長の村松進氏の4氏を任命し、活動していただいています。

このたび、8月1日付けで、本市出

身のシンガーソングライターである因幡晃氏を、新たに観光大使に任命しました。

因幡氏には、10月13日、14日に開催される「本場大館きりたんぼまつりin大館樹海ドーム」のステージイベントへの出演を契機に、大使に就任いただくこととなりました。

これまでの大使と同様に、本市のPR活動を展開していただくほか、定期的な開催する懇談会での提言を、市の観光施策に反映させていきたいと考えています。



その他の報告

- ・大館市環境マネジメントシステムの登録更新
- ・企業誘致の状況等
- ・夏季イベントの開催
- ・平成23年度の市税等の収納状況と未収債権対策
- ・学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業の実施
- ・平成24年度成人式
- ・平成24年度国民体育大会東北ブロック大会兼第39回東北総合体育大会
- ・公共事業の進捗状況